調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

〇全国学力・学習状況調査
【調査結果より】
・国語の平均正答率は全国平均とほぼ変わらない結果だった。正答数12問の生徒の割合が一番多いものの、二番目に多いのが８問正解の生徒の割合だった。学力の二極化が進まないようにするため、国語を苦手としている生徒へのフォローアップが必要である。
・数学の平均正答率は全国平均を５ポイント上回っていた。「図形」領域は全国平均を約14ポイント上回っているが、「データの活用」領域では全国平均を約６ポイント下回っていた。学習指導要領の領域によって得手不得手がはっきりとしていることが分かったため、苦手分野にフォーカスした対応を進めていく。
・英語３技能はIRTスコアが534で、全国平均を大きく上回っている。特に苦手としている技能や出題形式もなく、幅広く知識技能を身につけることができている。

【質問紙より】
・質問項目「自分には、よいところがあると思いますか」において、肯定的に回答した生徒の割合が87.1％（全国平均84.0％）であった。総合的な学習の時間を中心に、協働的に活動することを入学以降継続してきた成果がうかがえる。今後も自己肯定感が高まる取り組みを充実させたい。
・質問項目「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」において、肯定的に回答した生徒の割合が70.3％（全国平均71.9％）であった。「心の天気」や教育相談など、生徒の心の機微を感じ取るための取り組みは行っているものの、相談しやすい雰囲気づくりのためには、日常的な生徒との信頼関係構築が必要だと感じる。

今後に向けて

〇全国学力・学習状況調査
・国語において、話し合い中の発言の意図を捉える問題の正答率が、全国平均を15ポイント下回っている。国語の授業に限らず、学級や探究においての話し合い活動を充実させ、話し相手の意見を整理できる能力を身につけさせたい。
・数学においては、データを読み取って根拠を持って説明する経験が不足していると思われる。本校生徒は基礎的な知識や技能は習得できているので、この点に絞った授業計画を立てる必要がある。
・英語も数学と同様、自分の考えを表現することが苦手なように感じる。「英語を学ぶ」から「英語を使う」意識への変換が求められる。